

大本のまつり

どうしてお祭りをするの??



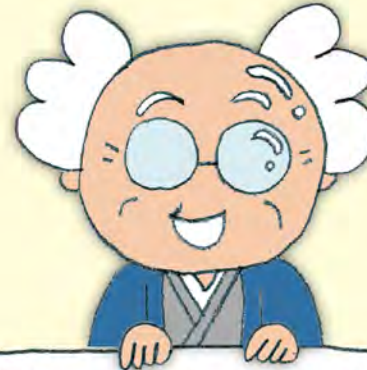
大本の月次祭 (京都府亀岡市天恩郷)



心も身なりも整えて

感謝の心を伝えるに、どうすればいいでしょう。気持ちが変われば身なりも変わります。身なりも整えば、さらに心も整っていくでしょう。
大本の祭に仕える人は、専用の白い着物「白衣」を身にまといまます。また、参拝する人は白衣を着ないまでも、感謝の心を形で表すために、

清らかな服装で参拝するとよいでしょう。



困った時は○×△…
人は節目を迎えると、神さまに感謝し上げる祭典を行います。具体的には、一年の節目に新年祭、秋祭は新穀感謝祭にあたりますね。ほかにも、七五三や成人式などがありますが、これは、人生の節目の祭典です。また、祈願の祭典はその時々に行われます。安産、合格、健康、必勝、商売繁盛、交通安全…とたくさんありますよね。
神さまにお願いしたら、成就するように人間的にも努力することが大切です。そして、その結果が出たら、きちんとお礼申し上げることを心がけたいものです。



皆さんは「祭(まつり)」と聞いて、何を思い浮かべますか?
たぶん、神社の「秋祭」などを連想する人が多いのではないのでしょうか。
では、「秋祭」といえば? みこしが出ますね。神社の境内にもぎわいます。
「それなら、たい焼きに、わた菓子に…」なんて声も聞こえてきそうですが…。(笑)
日本では、昔から「祭」が行われてきました。では、なぜ「祭」を行うのでしょうか。



みろく博士

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





大本や神社では、さまざまに時に祭を行っています。そのうち、月に一度の祭を「つきなみ祭」といいます。

「つきなみ」とは、「月次」とも「月並」とも書きますが、「月をつなぐ祭」ということです。月次祭では、過ぎたひと月を無事に送れたことに感謝し、来る月も無事で幸せに過ごせるようにお祈りします。

「ありがとう」を伝えるために

祭では、神さまからの恵みに対する感謝の表現として、いろいろなものを供えたり、感謝や祈りの言葉（祝詞）を奏げます。それこそが、神さまと人の心が真につり合った状態、それがまつり合い、「祭」というものです。

神さまと人とを、親子の関係に当てはめると、よく分かるでしょう。

子どもの幸せを願いながら、親子どもを大切に育てます。なのに子どもが親に感謝の心をもっていないければ、家庭の中はなかなかうまくいきません。親と子が互いに思い合うことで、和やかな家庭になるでしょう。

これと同じように、私たちが心を込めて祭を行うことで、世の中も穏やかになっていくのではないのでしょうか。

わしにも・・・♡



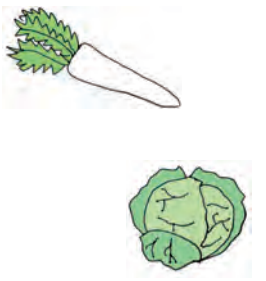
自然の恵みに生かされている



私たちは生きていくために、お米や野菜などの食物を食べています。その食べ物には私たちの口に入るまでに、たくさんのお恵みによって育まれています。



例えば主食のお米で考えてみると、お米が実るまでには、種から発芽し、土に根をはり、水とともに土の養分を吸い上げ、そして、太陽の光を浴びて育っていきます。これらはすべて自然のお恵みです。



遠い昔から、人びとはこの自然の恵みを「神さまからの恵み」とし、祭を行うことで、「感謝の心」をささげてきたのです。

ほかにも、人が生きていくために必要なものはすべて、元をたどるとどれも大自然の中に存在するものです。文明が発達した今でもそれは変わりません。車やパソコンの部品ひとつでも、自然の中にあるものから形作られているのです。

そう考えると、私たちは自然によって生かされているといえます。



「祭」とは……
まつりあう



「祭」という文字から考えてみましょう。

「祭」を平仮名で書くと「まつり」、これを分解すると「ま」と「つり」になります。さらに、漢字を当てると「真」と「釣り」で、「真釣り」になります。

天秤を想像してみてください。左右にものをぶらさげた状態で並行に保つには、バランスをとらなければなりません。その、つり合った状態が「真」である、「まことに」、「まったく」保たれていること。つまり、「まつり」とは、「まつり合う」ことなのです。

そうした祭のことを祭典ともいいます。

天国でも祭が？

月次祭では、神さまに感謝の心をささげます。一方で、参拝した人たちと、もめ事のない平和な社会であるように祈ります。祭が終わると供えたもので直会をしながら喜びを分かち合い、さらに、神さまから使命を受けた宣伝使から神さまにまつわる話を聴きます。

実は、この祭の流れは天国での祭がモデルになっています。このことは、大本の教祖の一人、出口王仁三郎聖師が『霊界物語』という本に書いています。

天国に住む天人も、悲しみや驚くような出来事に遭わないとも限りません。そんな心を立て直すために、天人は日を定めて祭を行います。

祭典を行い、幸せな気持ちに満たされた天人たちは、平和な世界がいつも保てるようになります。つとめます。

